Pesticide Science Society of Japan　日本農薬学会

PSSJ NEWS LETTER

http://pssj2.jp

2023年　第1号　令和5年2月20日

CONTENTS

■ 活動報告・各種会議議事録
■ 会員動静
■ 学会関連カレンダー
■ 学会主催会議などの詳細
■ 日本農薬学会第48回大会のご案内
■ 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内
■ 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
■ 講師派遣のご案内

令和4年度　第3回常任評議員会議事録

日　時：令和4年9月3日（土）12:20～14:30
方　法：Web開催
出席者：出席者16名（第48回大会組織委員長1名を含む）
議　事：

I.　令和4年度第2回常任評議員会議事録を確認した．

II.　経過報告および議案

1. 第48回大会について
   - 大会組織委員長から，東京農業大学での開催を目指した企画準備状況について説明があった．
2. 財務関係
   - 会計報告
     収支予算管理報告（令和4年1月1日から8月15日まで）について，順調に推移しているとの報告があった．
   - 学会機能の強化と学会50周年記念事業への活用を目的として，繰越金を積立調整基金へ投資することが提案され，承認された．
   - シニア会員と学生会員の負担軽減を目的として会費を改定することが提案され，承認された．
3. 編集委員会
   - 学会誌JPSへの投稿，アクセス状況，およびIFの推移について説明があった．
   - 令和5年度日本農薬学会論文賞受賞論文の推薦について報告された．
   - 最新号の学会誌で役員名簿の一部が更新されていなかった件について報告があり，今後はチェック体制を強化することを確認した．
4. 学術・技術支援委員会
   - 今年度の残留農薬分析セミナーを10月に実施予定であるとの説明があった．
   - 「農薬について知ろう」ウェブサイトの更新状況について説明された．
5. 将来計画委員会
   7月に提出した答申に基づいた提案について説明された．
6. 学会賞受賞者選考委員会
   候補者の推薦状況と審査スケジュールについて説明された．
7. 農薬科学研究奨励金について
   令和5年度助成の交付申請を受付中であることが説明され，審査過程の手順が確認された．
8. 選挙管理委員会
   常任評議員推薦の評議員候補者リストの更新状況について説明があった．
9. 技術士育成推進委員会
   次回大会で技術士セミナーを開催予定との説明があった．
10. 昆虫科学連合，植物保護科学連合
    - 日本植物保護科学連合が12月に開催予定の公開シンポジウムについて説明された．
    - 日本学術会議における「学術の中長期研究戦略」策定に関する農学分野の取り組みについて説明があった．
11. 国際学会の渡航費補助について
    令和5年1～6月の渡航費補助の募集スケジュールについて説明があった．
12. 学術小集会以外の研究会等開催経費補助について
    1件の申請について審議し，承認された．
13. 入退会の報告
    令和4年7月1日～8月20日の期間における入退会の報告があり，正会員8名と海外会員1名の入会が承認された．

14. その他
・学会の入会案内パンフレットの内容を更新する作業を行っているとの説明があった．
・農薬の再評価制度に関して，農薬レギュラトリーサイエンス研究会にてシンポジウム開催を検討していると説明があった．

令和4年度　学術小集会委員長との懇談会議事録

日　時：令和4年9月3日（土）15:30 ～ 17:20
場　所：Web開催（Webex）
出席者：小集会より7名，常任評議員会より14名
欠席者：常任評議員1名
議事：

1. 小集会活動報告
各学術小集会より，2021年の活動報告があった．
2. 今後の活動方針
各学術小集会より，今年度の活動方針について説明があった．
3. 小集会から常任評議員会への連絡・要望など
・研究会を開催する際，非会員の参加者への入会勧誘を支援をしてほしいという要望があり，シンポジウムの冒頭で学会活動紹介や入会案内を行うようにするとの説明があった．
・会員数の減少を抑制すること，特に学生会員の数を増やすことを目指して方策を検討してほしいという要望があった．
4. 常任評議員会・専門委員会から小集会への連絡・要望など
1）小集会活動経費関係の書類作成について（中村総務より）
書類提出に関する今後の予定について，説明があった．
2）農薬科学研究奨励金の審査委員について（橋本副会長より）
各小集会から2名ずつの審査員の推薦を依頼する予定であることが説明された．
3）シンポジウムの開催経費について（塩月会長より）
新型コロナウィルス感染状況に伴い参加者が見込めなかった場合の対応について説明があった．
4）将来計画委員会での検討事項に関して（松田副会長より）
・農業DXを始めとする新しいトピックを小集会で積極的に扱ってほしいとの提案があった．
・学会の50周年記念事業の一環として各小集会を中心とした書籍の出版が提案され，協力依頼があった．この書籍に採用される図表に関連して，ダウンロード可能な形態での提供も要望された．刊行は，2025年3月の50周年記念大会前を目指したいと説明があった．

第215回　常任編集委員会議事録

日　時：令和5年1月14日（土）　15:15～17:00
場　所：日本植物防疫協会地下1階会議室
出席者：11名
欠席者：2名
報告事項：

1）JPSへの投稿，アクセス状況，IFの推移（2019～2022）について
投稿料を10万円に引き上げたが投稿数は昨年と変わらない数を維持している．しかし一昨年に比べ採択数が減っているのが気になるところ．現在審査中の論文9件が採択されれば一昨年と同レベルを維持できると期待する．
PDFアクセス数については，引用数が100件以下の月は発生していない．引用数はIFの向上に重要であり，今後さらにIFが上がることが期待される．
2）学会誌（和文誌48-1）の編集状況について
和文誌48-1（2月発行）に向けての作業が順調に進んでいる．詳細について安藤和文誌担当委員より説明があった．
・農薬生物活性委員会は一昨年度（38回）のシンポジウム記事のみ掲載予定だったが，昨年度（39回）の原稿の提出をいただいたのでこれも併せて掲載する．従って予定より一本記事が多くなる．
・中川氏の総説は来週入稿する．タイトルは「昆虫成育制御剤研究の歴史と展望」．
・他の委員会との統一を図るため，シンポジアの目次に若干の修正がある．
（1）目次の著者は2名までとする．
（2）サブタイトルは削除する．
この修正については幹事校正のタイミングで出版社側に指摘をお願いしたい．
・タイトルに「シンポジウム」が付いているものと付いていないものがあるが，統一するかどうかについて検討することとした．
3）英文校正費3年間（2020–2022）の推移について（経費削減の件）
・2021年は学会賞受賞論文の英文校正を廃止（受賞者が英文校正を実施）し，校正費用は前年より18万円減少した．また2022年は英文校正証明書添付の投稿論文の英文校正を廃止した結果，さらに11万円の削減となった．
・要旨校正について

採択論文については著者校正の有無に関わらず委員長判断でabstractだけ校正に出しているが，これについて各委員の意見を聴取した．校正の結果を反映させるか否かは強制ではなく著者に任されているので，今のままでいいのではないかという意見が出された．また，著者による英文校正済み論文に関しても要旨については英文校正に出すことを従来通り継続することとした．

4）国別投稿数2年間（2021 ～ 2022）の推移について

・2021年は19カ国から，2022年は22カ国からの投稿があった．

・2022年は日本からは24本の投稿があったが採択数が12本と少ない．現在審査中の論文があるのでこれが採択されてくることを期待したい．

・今回，フランス，オーストラリアからの投稿もあったが残念ながら採択には至っていない．将来的には欧米からの投稿が増えることを期待したい．

・経済制裁国からの投稿を採択しても投稿料の回収は難しい（国際送金が困難なため）のが現状，制裁国からの投稿には今後注意を払うことが必要であることが指摘された．

審議事項（議題）：

1）和文誌の投稿細則の改定（案）について

投稿細則（18）の改訂案について安藤委員より以下2点の説明があった．

（1）論文タイトルを加えるように記述例を変更することについて

和文誌にも論文タイトルをつけるように細則を変更することを確認した．実施は3月7日開催予定の編集委員会に投稿細則の変更を諮ったのちに細則を改訂（学会HP等）し，新年度（令和5年4月，48-2号）から実施する．

（2）本を引用する場合の記述例の変更について

記述例の変更案を了承し，次号（和文誌48-2）から採用することとした．これについては3月7日の編集委員会でアナウンスする．

2）次期（令和5年4月～）常任編集委員会の体制について

次期の常任編集委員会の体制について確認した．

新規の編集委員のリクルートは可能であれば1月中に行い，2月4日の常任評議委員会に提出することとした．

3）JPS48-2（令和5年5月20日発行予定）に掲載するReview論文について

現在執筆候補者を探しているとの説明があった．

その他の事項：

1）リポジトリについて

昨年，大学側からJPS掲載論文の大学リポジトリ掲載の許諾に関する問い合わせが委員長宛に2回あった．これについて，改めて議論し，大学のリポジトリ掲載について特に問題にすべき事案はないということを確認した．

2）次号和文誌（48-2）の記事について

読み物企画（各地の生産現場から）について，書き手を探すのが難しいとの意見が出された．

ショートレビューの書き手についても，現況を確認することとした．

3）次回開催予定：

3月下旬の土曜日（18日か25日）を予定．引き継ぎ等を予定している．

令和4年度　第2回選挙管理委員会議事録

日　時：令和4年9月17日（土）
方　法：WEB会議
出席者：7名（含む総務担当常任評議員2名）
議事：

1. 評議員候補者名簿を基に，資格審査
2. 今後のスケジュールの確認

令和4年度　第3回選挙管理委員会議事録

日　時：令和4年11月5日（土）
方　法：WEB・対面ハイブリッド会議
出席者：7名（含む総務担当常任評議員2名）
議事：

1. 役員選挙に係る会則，細則，規定を確認
2. 開票手順を説明
3. 開票を行い，会長1名，副会長1名，監事2名，評議員70名，評議員補欠若干名を決定
4. 今後のスケジュールの確認

令和4年度　第2回学術・技術支援委員会議事録

日　時：令和4年12月17日（土）13:00 ～ 16:00
方　法：オンライン会議
出席者：12名
報告および検討事項：

・残留農薬分析セミナー

2022年10月19日に令和4年度セミナーがオンライン開催され，22名の参加があった．令和5年度は対面開催も視野に入れ検討する．

・講師派遣の取組

講師紹介1件，講師派遣1件の取組を行った．

・学会HP

各種バナーを作成するとともに，残留分析セミナー等の情

報を適宜更新した．

・「農薬について知ろう」ウェブサイト
新規サイトを掲載するとともに，リンク切れチェック等を定期的に実施した．

・その他
「残留分析知っておきたい問答あれこれ」の改訂について今後検討していく．

会　員　動　静

（令和4年8月21日～令和4年11月15日）

入会

正会員

青木　隆夫　　三村　尚毅　　大森　康弘　　中村　　歩
上川　　徹　　浅見　行弘　　金原　康治　　平松　未森

学生会員

桑田　佳明　　近藤　直純　　小笠原千夏　　徐　　超
西本　光希

海外会員

SAIFI, Rayane

（受付順）

退会

正会員

伊藤　武治　　鎌倉　高志　　小川　光寛　　小倉　友幸
佐々木淳矢　　矢野　哲彦　　那須　美菜　　山本　　彩
細井未知瑠　　小美濃達平　　末永真友菜

学生会員

津守千亜希　　石田　桃香

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2023年

3月

8日（水）～10日（金）　日本農薬学会第48回大会
主催：日本農薬学会
会場：東京農業大学世田谷キャンパス〔〒156–8502　東京都世田谷区桜丘1–1–1〕
URL：http://pssj2.jp/congresses/48/taikai48.html

第23回農薬バイオサイエンス研究会（第48回大会と共催でシンポジウムを開催）
主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
会場：東京農業大学世田谷キャンパス〔〒156–8502　東京都世田谷区桜丘1–1–1〕

13日（月）～15日（水）　第67回日本応用動物昆虫学会大会
主催：日本応用動物昆虫学会
会場：摂南大学枚方キャンパス〔〒573–0101　大阪府枚方市長尾峠町45–1〕
URL：https://confit.atlas.jp/guide/event/odokon67/top

14日（火）～17日（金）　IUPAC 15th ICCPC
主催：IUPAC
会場：NASC Complex, New Delhi
URL：https://www.iupac2023.in/

27日（月）～29日（水）　令和5年度日本植物病理学会大会
主催：日本植物病理学会
会場：オンライン開催
URL：https://www.knt.co.jp/ec/2023/ppsj/outline.html

30日（木）　第32回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム
主催：日本植物病理学会
会場：オンライン開催
URL：http://www.taiseikin.jp/symposium/

9月

28日(木)～29日(金)　第42回農薬製剤・施用法研究会シンポジウム

主催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会

会場：奈良県奈良市

11月

13日(月)～14日(火)　第46回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会

会場：アクティーホール（長野県長野市）

（日程未定）第40回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会

詳細が決まり次第，ホームページ等でお知らせします.

学会主催会議などの詳細

第23回農薬バイオサイエンス研究会（第48回大会と共催でシンポジウムを開催）

主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会

会場：東京農業大学世田谷キャンパス〔〒156–8502　東京都世田谷区桜丘1–1–1〕

3月9日(木)（A会場）14:40–17:30

シンポジウム1「生命科学の新技術に学び，活かす」

オーガナイザー：太田広人（崇城大学 生物生命学部）
伊藤晋作（東京農業大学 生命科学部）

開会挨拶14:40–14:45

S1-1 「画像解析に基づく細胞の定量評価と認識」14:45–15:15　檜垣　匠（熊本大学大学院先端科学研究部）
座長：太田広人（崇城大学）

S1-2 「クライオ電子顕微鏡による構造解析から分かってきた回転分子モーターの反応メカニズム」15:15–15:45　岸川淳一（大阪大学 蛋白質研究所）
座長：村井正俊（京都大学）

S1-3 「RNA農薬実用化に向けた二本鎖RNAの発酵生産技術の開発」15:45–16:15　臼田佳弘（味の素株式会社R&B企画部）座長：平田晃一（日本曹達）

休憩

S1-4 「植物のコミュニケーション力を活かした揮発性バイオスティミュラントの開発」16:25–16:55　山内靖雄（神戸大学大学院農学研究科）
座長：乾　秀之（神戸大学）

S1-5 「構造ベース創農薬の利点と課題（仮）」16:55–17:25　西ヶ谷有輝（株式会社アグロデザイン・スタジオ）座長：原田俊幸（住友化学）

閉会挨拶17:25–17:30

日本農薬学会第48回大会のご案内

日時：令和5年3月8日(水)～10日(金)

会場：東京農業大学世田谷キャンパス（〒156–8502　東京都世田谷区桜丘1–1–1）

3月8日(水)　東京農業大学世田谷キャンパス　百周年記念講堂（17号館）

総会および授賞式

日本農薬学会賞受賞者講演

特別講演

浅野　哲（内閣府食品安全委員会）「残留農薬の安全性確保のためのリスク評価」

加藤　拓（東京農業大学）「吸着体としての土壌コロイドの化学的性質」

未来開拓シンポジウム：将来の植物保護に向けた応用微生物学

浅見行弘（北里大学）「生物活性物質の探索と植物保護への応用」

永田裕二（東北大学）「土壌圏微生物による人工農薬分解のフロンティア」

阪井康能，由里本博也（京都大学）「葉圏C1微生物の生理・生態から明らかになる新たな炭素循環像とバイオスティミュラントとしての機能開発」

3月9日(木)～10日(金)　東京農業大学世田谷キャンパス　1号館

一般講演，シンポジウム，ランチョンセミナー，技術士セミナー，展示

シンポジウム

3月9日(木)「生命科学の新技術に学び，活かす」(共催：農薬バイオサイエンス研究会)

檜垣　匠（熊本大学大学院）「画像解析に基づく細胞の定量評価と認識」

岸川淳一（大阪大学）「クライオ電子顕微鏡による構造解析から分かってきた回転分子モーターの反応メカニズム」

臼田佳弘（味の素株式会社）「RNA農薬実用化に向けた二本鎖RNAの発酵生産技術の開発」
山内靖雄（神戸大学大学院）「植物のコミュニケーション力を活かした揮発性バイオスティミュラントの開発」
西ヶ谷有輝（株式会社アグロデザイン・スタジオ）「構造ベース創農薬の利点と課題（仮）」

3月10日（金）「天然物化学は学びの宝庫」

臼杵豊展（上智大学）「植物に関連した天然物の合成から生物活性まで」
千成　恒（北里大学）「テルペノイド二層系生合成に学ぶ架橋多環式天然物の網羅的全合成」
早川一郎（日本大学大学院）「天然物合成における2つのアプローチ」
若森晋之介（東京農業大学）「植物防御物質であるエラジタンニンの統一的化学合成法の開発」

ランチョンセミナー

3月9日（木）

Eurofins Agroscience Services（世話人企業：株式会社化学分析コンサルタント）
「The importance of robust method development in complex analytical challenges—Human Exposure as Case Study」

Battelle
「Update on US EPA Regulatory Activities」

ラボコープ・ディベロップメント・ジャパン株式会社
「Benefits, Opportunities and Challenges of（Q）SAR Modelling in Crop Protection」

3月10日（金）

JCPA農薬工業会
「食料安定供給における作物保護の重要性～食料生産を取り巻く状況と作物保護産業の取組～」

Charles River
「Application of Metabolomics as a Knowledge Driven Approach Towards Chemical Hazard Risk Assessment and Predictive Toxicology」

LANDIS International, Inc.（世話人企業：LANDIS International Japan合同会社）
「2023 Environmental Protection Agency Update and the Endangered Species Act—2023米国EPAの最新情報と絶滅危惧種法について—」

技術士セミナー（ランチョンセミナー）

3月9日（木）　タイトル等未定

展示会

東京農業大学世田谷キャンパス　1号館

出展企業・団体：ソフィオンバイオサイエンス株式会社，Battelle Memorial Institute, 株式会社LSIM安全科学研究所，株式会社ケー・エー・シー，株式会社ヤヨイ，株式会社化学分析コンサルタント，シグマアルドリッチジャパン合同会社，ビオブリッジ株式会社，一般財団法人生物科学安全研究所，ヴァーダー・サイエンティフィック株式会社

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では，精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています．2003年に初版を発行以来，好評を博して改訂を重ね，現在最新版が改訂4版となっております．改訂4版では，前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ，最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで，初学者の方にも，より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました．また，携行性を高めるために軽量化を図りました．前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として，さらに，食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても，農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです．定価は3,000円です（送料別）．

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて，以下の日本農薬学会事務局に氏名，所属，メールアドレス，電話番号，送付先住所，購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい．また，メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい．折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので，振込みをお願いします．詳細は，学会ホームページもご参照ください．

日本農薬学会事務局：

〒114–0015 東京都北区中里2丁目28番10号　日本植物防疫協会内

FAX: 03–5980–0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました．学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので，ご参照ください．

「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています．このサイトでは，農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています．

食品の安全に対する関心が高い中，家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが，関連する情報は散在しており，知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません．そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき，食の安全や健康影響，環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています．

このサイトでは，情報を必要としている方々に応じて小学生，一般の方，先生，農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています．また，小学生向けには漢字にルビを振るとともに，分かりやすい情報サイトを選び紹介しています．さらに，情報は「規制」,「安全性」,「薬剤」,「環境・残留」,「農業」のカテゴリー別に分類されています.「規制」は農薬の登録や管理に係る法律，試験方法，農薬残留基準，食品の輸出入など,「安全性」は毒性，安全性，健康影響，リスク評価やリスク管理の考え方,「薬剤」は農薬の種類や特徴，農薬の使用方法,「環境・残留」は農薬の残留，環境中の分解，環境生物への影響など,「農業」は効果，薬害，防除，農法などについて整理されています．また，キーワードからカテゴリーごと，あるいは，50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています．農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけではなく，農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています．

今後も新しい規制や技術，知見など収録情報の追加や更新を継続していきます．皆様にご活用いただけますようお願いいたします．

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください．

http://pssj2.jp/rikai/index.shtml

講師派遣のご案内

日本農薬学会では，一般市民や農業，教育関係の方々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として，専門家を講師として派遣しています．派遣講師が行う講義の内容は，食料生産，作物保護，食品安全，環境影響，薬剤抵抗性，農薬製剤・施用法，農薬をめぐる諸問題等，ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので，遠慮なくご相談ください． 本活動にご興味がございましたら，学会ホームページ（http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html）をご参照のうえ，日本農薬学会事務局にご連絡ください．

発行所：日本農薬学会
〒114–0015　東京都北区中里2–28–10
一般社団法人日本植物防疫協会内
FAX: 03（5980）0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp